令和7年度 学校評価表

自ら学び 共に伸び続ける 三成っ子の育成 ~未来を拓く 今の自分に プラス1~ 学校教育目標

尾道市立三成小学校

	a ミッション	小中連携教育を基盤とした確かな学力の育成				а ビジョン				危機意識から改善意識そして未来志向 【誠実・徹底・継続】					
	評価計画+A7:Q19										自己評価	学校関係者評価		改善計画	
	b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値		7月 g 達成 値	1月 g 達成 値	h 達 成 度	i 評 価	j 結果と課題の説明	k 二次評価	אעאבו	m 改善案	
危機意識から改善意識そして未来志向【誠実・愛情・一	課題を解決 し、主体的 に学ぶ児童 の育成	【学力向上部】 基礎的学力の育成	①授業改善を推進する上で、 問題発見・解決の過程を重視 する。	国語・算数の単元末テスト85点以上の児童割合	85 %		70.0% 68.3%		82.0% 80.3%	В	概ね達成できたが、国語科では、文章の読み取りは概ね達成しているが、語彙の少なさや、文法的な理解が不十分であった。漢字の定着は、小テストを頻繁に行っている学年では比較的高かった。 算数科では、学年や単元によって、達成の状況はばらつきがみられたが、文章問題から演算決定をすることが難しい学年が多かった。	3	・中高学年では一定の成果が出ているのではないかと考えられますが、低学年の数値結果は気になります。将来的(中高学年・中学校)に格差拡大に繋がらないよう、低学力傾向にある児童の支援(工夫・改善・学習意欲向上)が大切だと思	国語科においては、漢字の定着や文法的な理解に課題があったので、家庭学習やドリルタイムで計画的に反復練習に取り組み、小テストで定着状況の確認を行う。また、語彙の意味が理解できているか授業の中で意図的に問うことや、積極的に国語辞典を活用していく。	
				国語・算数の単元末テス ト75点以上の児童割合	80		79.0% 80.2%		99%	-			います。 ・漢字は毎日漢字ドリルの宿題と間違い 直しの反復を強化するとよいと思いま す。また、語彙については、読書を習慣 化することが大切だと思います。	算数科においては、四則計算の意味を再度確認することや、生活場面に活用できるよう指導を工夫することを通して、文章問題において、正確に演算決定を行い、問題解決ができるようにする。	
			②ドリルタイム等を活用し、 基礎的な計算練習を徹底す る。	計算チャレンジにおいて 記録が伸びた児童割合	100%		78.5%		78.5%	С	達成率は78.5%であった。反復練習する中で、どの学年も伸びが見られた。一方、伸びが見られない児童が学級に一定数見られ、全員が目標に向けて取り組むことに課題がある。	2 1	・ 反復練習での伸びが見られない児童に対して、根気強く関わっていくことが、 その児童の意欲に繋がるのではないかと 思います。	2学期以降も児童の実態に応じた取組を 行っていく。さらに、児童が意欲的に計算 チャレンジに取り組めるよう、達成した児 童に各学級で賞吠を渡すなどの取組を行 う。	
	規範意識をもち、自己を持定できる。	【心つくり部】 規範意識や相手意識 の醸成	【思いやりあふれる学級作り】 ①教師が模範となり率先して 挨拶を行う。 ②挨拶をすることの良さを児 童に繰り返し伝えていく。	①教師の見取りによる、 気持ちのよい挨拶が実行 できた児童の割合	80%		68.9%		86%	В	児童会執行部によるあいさつに関する様々な取組を経て、低学年を中心に積極的に挨拶をする児童の姿が見られるようになってきた。しかし、高学年においては、挨拶への意識が依然低い児童も多くいる。挨拶の意義について繰り返し指導していく必要がある。	3	・常に元気と笑顔をもっていれば、自然と気持ちのよい挨拶ができると思います。 ・下校時に子供達に声をかけると気持ちのよい挨拶をしてくれます。 ・「教師の見取り」だけでは、正確な評価に繋がらないのではないかと思います。	児童会執行部の取組と並行して引き続き、あいさつの意義を伝えていく。また、2学期から進んで挨拶ができる児童を全校に表彰する取組を行っていく。挨拶のモデルとなる児童が増えることで、挨拶の意識を高めていく。	
			【規範意識の高い学級作り】 ②キラキラアンケート実施時 や日々の生活の場において、 きまりを守る良さを児童に繰 り返し伝えていく。	②児童アンケート「きまりを守れた」の項目に肯定的に答えた児童の割合	80%	% 8	82.0%		103%		児童のきまりに対する肯定的評価は非常に高い傾向にある。それだけ、きまりを守ることの大切にさに気づいているとも言える。児童の肯定的な気持ちを大切にしながら、きまりに対してもうかある。また、守れていない児童については、保護者連携を行い、規範意識の高揚を図る。	3	・「教師の評価」と「児童の評価」の 比較から、新たな課題が明らかになる のではないかと思います。 ・小さなきまり「靴を揃える」「廊下 を走らない」などを守ることの積み重 ねが大きなトラブルへの防止に繋がる と思います。	毎月のアンケートの実施前に、自 分自身を振り返る時間を取り、しっ かり考えさせた上で、アンケートに 回答させることで、規範意識の向上 を図っていく。また、日々のきまり に関する指導とアンケートが結びつ くよう留意する。	
	康な児童の育成	【体つくり部】 体力の伸びを実感 し、自ら進んで運動 に親しむ児童の育成	①体育科授業の導入、家庭学習等において、握力が向上する取組を継続していく。	①握力の向上値(4月の 値をもとにする)が目標 値(全国平均向上値)を 超えた児童の割合	80%	%	21.0%		23%	D	取組を始めて約3か月しか経っていないので、達成率は21%とまだ低い数値となっている。しかし、4月よりも握力値は確実に向上している児童がほとんどである。握力向上に対する取組を各学級で行われているが、取組状況にばらつきがある。今後より充実した取組が必要だと考える。	1 1 1	・目標値を設定するときに、例えば、 7月は30%、11月は80%等、設定の 工夫をしても良かったのではないかと おもいます。 ・体力作りの中で握力向上をめざした り、手伝い等の家庭での取組も入れた りすると良いのではないかと思いま す。	2学期から以下の3点を実施していく。 ①自己の記録の伸びの視える化に取り組み、自らの伸びを実感できるようにする。 ②強度の違うハンドグリップ数種を教室に配置し、自ら進んで運動することができる環境を作る。 ③体育授業の導入時や家庭学習でできる握力を高める運動についての研修を行う。	
		健康に生活しようとする児童の育成	②毎月メディアコントロール デーを設定する。適宜、保健 指導や保護者啓発を行う。	②各家庭で決めた「きまり(メディアの使用時間等)」を守れた児童の割合	80%	% ;	83,6%		104%	A	4月は目標を達成した児童が69.7%であったが、7月には83.6%と向上した。各学級での保健指導・個別指導や校内放送での呼びかけ、高学年対象に行った電子メディア対策講座などが数値向上の要因としてあげられる。メディアコントロールデーの取組に対して、無関心な児童や保護者がいること課題である。	3	・4月より7月の数値は取組の成果だと思います。課題である「無関心な児童」への取組を学級・学校集団の力で克服してもらいたいです。・どの家庭においても、何かしら困っていることが多いと思います。保護者も規範意識の向上が必要だと思います。	たに実施していく。 ①コドモンを使ってメディアコントロールデーについての保護者啓発を	
丸	子供を安心 して ること を も る で き る り り で り で り で で り で で り で り で り で り で	【教務部・総務部】 学校と保護者との相 互理解の醸成	①教育内容の質の向上と内容の精選を行い、「働き方改革」を進め、時間と心のゆとりを生む。計画的・実態に応じて服務研修を行い、不祥事防止を図る。	①教職員アンケート「自 分の職務に充実感をもっ ている」の肯定的評価の 割合	90%	% 8	87.5%		97%	В	日々生起する事案に対し、組織的且つ迅速に対応することに重点を置き、児童と向き合う時間を最優先として取組をすすめてきた。しかしながら、教諭2名の休職及び退職に伴う業務の負担や、職員の半数以上が依然残業時間45時間を越えるという実態があり、業務改善に向けた見直しが必要と捉えている。	3	・時間外在校等の問題を、人的配置の 要望や書類作成の簡略化等、もっと広 義に捉える必要があるのではないかと 思います。 ・児童のため、先生方の日々の努力に 感謝しています。しかし、無理をされ ていないか健康面が心配です。まず は、教職員の配置が必要と考えます。	「三成小 業務改善 わくわく掲示版!」を設置して、「こうしたらもっと効率よくできるのに」といったアイデアを募集するとともに、夏季休業期間中に、業務改善会議を行い、業務改善に向けた見直しについて、教職員で協議を行う。	
			②教職員による学校たよりや HP、コドモン等を通じて情報発信を行い、保護者の満足度を高める。	②保護者アンケート「安心して子供を学校に通わせている」の肯定的評価の割合	90%	% 9	92.7%		103%	А	学校行事等を通じて児童の様子を伝えたり保護者の相談に応じたりしながら取組をすすめたことが、成果の要因の1つと考える。保護者アンケートには、「学校へ楽しく通っている」「相談しやすい雰囲気があり安心できる」等、肯定的な意見が多く見られた。その反面、担任が替わることや友達関係等を心配する声もあった。目標値を上回ることはできたが、て3%の保護者の思いをしっかり受し止め、より一層保護者連携を行うことが重要と捉えている。	3	・学校と家庭が概ね上手くいっているように 同えます。アンケート末提出家庭と、否定的 な評価をしている7.3%の保護者が気になりま す。この数字をどのように捉えるか検討が必 要だと思います。 ・保護者同士、保護者と学校との距離を近く することで、防げる事もあるとおもいますの で、学級懇談会の出席率アップを願います。	引き続き、学校便りやHP、コドモン等を通じて学校の様子を伝えていくとともに、保護者連携を行って行く。	